

# しらかば

## 「ありがとう」と自己有用感

富良野市立山部小学校長 桑原久美

夏休みが終わり2学期がスタートしました。大きな事故もなく元気に子どもたちが登校できたことは大変喜ばしいことです。一方、新型コロナウイルスの感染拡大はデルタ株の影響もあり、衰える気配すら感じられません。子どもたちの命を守るため、延期していた行事を実施するため、これまで以上に感染防止に努めて参ります。マスクの着用、石けんによる手洗い、本人及び家族の風邪症状が治まるまで登校させないなど、ご家庭でのご協力も引き続きよろしくお願いいたします。

さて、今年度の重点目標の一つに「人と関わる力」の育成の掲げていますが、その中で特に「自己有用感」を育てたいと考えています。

「自己有用感」とは

人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター「生徒指導リーフ」より引用

相手がいて、その人との関わりの中で、自分の価値に自信をもつ子どもの育成を目指しています。



児童会では、「フレンドハッピーズ」運動として、友だちからしてもらってうれしかったことを紙に書き、掲示して見合う活動をしています。このように、人の好意に気づき、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えられることが、自己有用感を育てる第一歩だと考えます。

一方、自分自身が、人からの優しさや思いやりに触れ、感謝の気持ちをもつことも大切なことです。自分から「ありがとう」と伝えられる人にもなってもらいたいです。

ご家庭でも、お子さんの努力や頑張り気づき、「頑張ったね」「してくれて助かったよ」「ありがとう」の言葉を伝える機会が増えることを望みます。



